

科目名	教育認識論特殊研究	担当者	オガサワラ 小笠原 ヒロヤス 喜 康	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	この授業では、教育において知識を学ぶというときの、その知識とはいったいなんなのかという問題を考える事を目的としている。古来より、この問題は哲学の二つの課題の一つであった。それは、私たちはどういう存在なのかという「存在論」と、私たちは世界をどのようにして知るのかという「認識論」である。この後者の問題は、もちろん前者に関わる問題あるが、近年の考え方は、それ以前とは極めて大きく変わっている。この授業では、哲学的な議論の他に、現代の AI 問題も考えてもらい、さらにそのことを理解する事が目的である。これがわかれば、教育の最も基礎的かつ根本的な問題の一つに迫ることができる。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 知識の基本的な考え方のいくつかを理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 コネクショニズムとAIの関係を理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 Wiki で「認識論」を検索してどのような論があるのか調べる。2時間</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニング】</p> <p>この授業では、文献による研究を踏まえて、課題2においては、近くの科学館や歴史館などで、知のあり方を実地に研究する。また Youtube の映像なども参照する。</p> <p>【学習方略 (LS)】</p> <p>前期も後期もレポートを提出していただくが、上記のように後期は、博物館の实地調査を踏まえてレポートを作成していただく。</p>		
スケジュール	<p>前期は、提出は9月であるが、課題1・2とも、必ず草稿を出すようにしてほしい。したがって、課題1の草稿は、6月いっぱい、課題2の草稿は8月いっぱいに出してもらいたい。これは評価に関わるので注意してもらいたい。</p> <p>後期は、博物館にいて、それをふまえて課題の草稿を書いてもらいたい。これも草稿を出すように。課題1の草稿は、11月いっぱい、課題2については、12月中に草稿を出してもらいたい。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	50 %	テキストの理解ができているかどうか。そしてそれに基づいて、自分の言葉で書かれているかどうか。
	平常評価	50 %	草稿を出しているかどうか。
履修者への要望	<p>履修に当たっては、計画をたてて勉強するのはもちろんだが、文献にあたることと、自分の言葉で書く事を心がけていただきたい。文献は、CiNii で手に入るものでかまわないので、関係するものを10編以上集めること。課題の提出においては、その集めたものを引用参考にすることが望ましい。</p> <p>なお検索には、CiNii ばかりでなく、Google も活用してもらいたい。Google は、昨年新しく人工知能を使った検索エンジンを開発したので、非常によくヒットする。</p> <p>[検索語] [検索語] .pdf (.ac) 例：知識 世界内存在 .pdf</p> <p>.ac をつけると、大学などの研究機関の文献が手に入る。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 野矢茂樹 教材名： 『心と他者』（中公文庫，2012年）ISBN-13： 978-4122057258 926円+税
	本書は、「心」とはなにかという問題を非常にわかりやすく解説してくれる。教育においては、「わかる」ということが重要だが、頭だけでそれがきまるものかどうか。自分とは何か。他者との関係から、本書はそうしたことを丁寧に分析してくれる。
参考図書	野矢茂樹『他者の声 実在の声』（産業図書，2005）
履修上のポイント	この講義の目的は、「わかるとはなにか」という最も基本的な問題を最新の視点で切りわけることである。これまでの常識に頼らずに、自分で例を出して考えながら研究してもらいたい。
レポート課題 1	知識をもつという状態は、比喩的表現である。知識はモノではないので、「持つ」ことはできない。ではどういう状態なのか。教材を読んで自分なりに答えてください。 留意点： なるべく具体例で考えてください。
レポート課題 2	近くの博物館にでかけてください。その展示に、あなたに問いかける展示はありますか。その博物館の概要と、展示解説の課題を報告してください。もし可能なら、あなたなりの改善案を示してください。写真などもいれてください。表紙には、その博物館の写真も載せてください。 留意点： 「博物館」というのには、歴史・科学・美術・動植物などすべての展示教育施設が含まれます。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：松尾豊 教材名：『人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの』（KADOKAWA/中経出版，2015）
	今話題の人工知能，テレビでもニュースや番組にならない日はないほどである。本書は，人工知能への誤解も解きながら，私たちがわかるとは何か，人間とは何かを考えるヒントを与えてくれる。
参考図書	三宅陽一郎『人工知能のための哲学塾』（ビー・エヌ・エヌ新社，2016）
履修上のポイント	人工知能のことはいろいろと誤解されている部分があります。なんでもできる，人間をおびやかすのではないかなど，それこそ期待と恐怖が入り交じっています。大切なのは，そうした言説に惑わされない正しい理解です。現実には，まだまだなのです。しかしそれでも，使い方によっては，問題をおこすかもしれません。そうしたところを慌てずにしつかりと考えてみてください。
レポート課題 1	あなたはこの本を読んで，どういう感想を持ちましたか。関心をもった話と，あなたの意見をのべてください。 留意点： 単なる全体感想ではなく，この本の一部だけを取り上げて，それに関する別の情報も参照してのべてください。
レポート課題 2	Youtube でポストンダイナミック社などのロボットの映像をさがしてください。そして，そうしたロボットが私たちに問いかける問題を考えてみてください。 留意点： 自己判断兵器についても考えてみましょう。